# 音楽科

教科領域研究テーマ

【自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成
― 主体的に思いや意図をもって表現したり
味わって聴いたりする学習活動の工夫 ―】



音楽科

# 自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成

## ― 主体的に思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする学習活動の工夫 ―

実　践　者　三棟　優子
愛媛大学研究パートナー　井上　洋一，木村　勢津，楠　　俊明

## 第１章　はじめに

音楽は，人々に楽しさや感動，安らぎや生きる喜びをもたらし，人生を豊かにすることができる。また，他者に共感する心を通じて，他人を尊重し，異なる考えを持つ人々と共に生きる資質を育むことができる。

音楽科では，生徒に持続可能な社会を支える資質・能力を育成するために，自分の気持ちや考えを表現し伝える力（自立の力）と多様な価値観を認め，互いの個性を尊重する力（共生の力）を育てる必要があると考えた。音楽科でできることとして，表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，感性や知性を働かせて音楽の面白さやよさ，美しさを見いだし，音楽を楽しんだり，他者の感情などに共感し，コミュニケーションを図りながら相互理解を深めたりすることが挙げられる。そのため，教科領域テーマを「自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成」とし，それを達成するためには，主体的に思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする学習活動を展開することが効果的であると考え，本研究テーマを設定した。

## 第２章　研究の実際

### １　研究の内容及び方法

#### (1)　生徒の実態把握

#### (2)　音楽的な見方・考え方を働かせ，他者と協働しながら，思考・判断し，表現する学習活動の工夫

○生徒の興味・関心をひく学習課題や教材提示，発問の設定の工夫

○生徒一人一人が知覚・感受する場面と，それを共有し，個々の知覚・感受を広げ深める場面設定の工夫

○音楽を形づくっている要素の働きと関連付けながら，楽曲の特徴などを生徒同士が共有するための場面設定の工夫

#### (3)　音楽科の特質に応じた言語活動の工夫

○知覚・感受したことを，生徒が音や言葉で表現するための工夫

### ２　研究の実際

#### (1)　生徒の実態

本校の生徒は，音楽の授業に意欲的に取り組む生徒が多く，５月に実施したアンケートでは「音楽の学習が好きですか」の問いに，90％以上の生徒が肯定的な回答をした。また，「音楽を学習することが自分の生活を明るく豊かにし，心を豊かにすることにつながる」とも考えていた。それに対し，「音楽を学習することが普段や将来の生活，あるいは社会に出た時に役立つ」と考えた生徒は60％にとどまった。

これまで生徒は，共通教材を中心に日本の歌を学習し，歌詞の意味を捉え，歌詞に描かれている情景などを想像しながら歌ってきた。また，日本語の歌詞をいかに明確に伝えるかという視点から，母音や子音の発声の仕方，身体や息の使い方などを継続的に学習している。しかし，日本の歌に対しては，「変化が少ないのであまり好きではない」，「堅いイメージ」，「全体的に渋い」，「歌いにくい」と思っている生徒もいた。また，混声四部合唱への挑戦は初めてということもあったため，変声期を迎えた生徒に対して，発声を中心とした指導や正確な音程で歌い合わせる学習が中心となり，音楽の構造や音楽記号などを基に主体的に考えて歌うことには弱さを感じていた。

こうした生徒の実態を踏まえ，全ての生徒が意見を出し合えるように，個々の考えをしっかり持たせてからグループ学習を取り入れるようにすることで，生徒同士の学び合いが生かされ，一人でも多くの生徒が学習課題の解決に向け，自ら考え見通しを持つ力を身に付けさせたいと考えた。

**(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫**

「ふるさと」の学習では，歌詞の内容や曲想にふさわしい表現にするために，繰り返し詩を朗読したり，主旋律を斉唱したりすることで，日本語の持つ美しさを味わわせ，言葉と音楽との関係を大切にしながら学習を進めていった。また，音楽を形づくっている要素（旋律，フレーズ，強弱，テクスチュア）を知覚し，音楽の美しさや豊かさを感じ取り，ワークシートに記入した意見を共有しながら歌い，曲を練り上げていく場面を大切にした。その際，自分の思いや意図，表現方法などが自由に書き込めるような学びの過程を残すことができるワークシートを工夫した。

今回はより目標を持って歌唱表現するために斉唱だけでなくアカペラ混声四部合唱に編曲された作品を教材として選択した。合唱練習では，全体の響きを聴きながら，自分の声と友だちの声とを調和させて歌うことの楽しさを味わわせた。

**(3) 授業の実際**

**ア 指導の実際**

**(ア) 題材名** 歌い継ごう 心に響く日本の歌

教 材 文部省唱歌 「ふるさと」 高野辰之：作詞 岡野貞一：作曲 伊藤康英：編曲

文部省唱歌 「朧月夜」「もみじ」「春の小川」「春がきた」「日のまる」

**(イ) 題材の目標**

○歌詞の情景や心情を感じ取りながら，表現に対する自分の思いや意図をもち，曲想と歌詞の情景を関わらせた表現を創意工夫することができる。

○歌い継がれてきた日本の歌の特徴と背景となる文化・歴史との関わりを理解する。

○言葉の発音や息の使い方などを工夫しながら，全体の響きや各声部の声などを聴き，友だちと合わせて歌うことができる。

**(ウ) 逆向き設計を活用した指導計画**

| 第1段階：求められている結果 |
|---|
| **【研究テーマを踏まえた単元目標】**<br>○歌詞の情景や心情を感じ取りながら，表現に対する自分の思いや意図をもち，曲想と歌詞の情景を関わらせた表現を創意工夫することができる。<br>○歌の特徴と背景となる文化・歴史との関わりを理解させ，長年にわたってその歌が歌い継がれている理由を考えることで，自分たちの生活や社会において音楽が果たしている役割を考えることができる。 |
| **【本質的な問い】**<br>なぜ日本の歌は歌い継がれているのか。 |
| **【永続的な理解】**<br>歌い継がれている日本の歌は，歌詞とメロディーが一体化していて，歌われている具体的な風景を知らなくても，豊かな自然や四季の美しさへのイメージを膨らませることができる。世代を超えて歌い継ぐことは，生活の中の様々な場面で音楽を楽しんだり，共有したりする態度を養うことにもつながる。 |

**【生徒は次のようなことができるようになる】**
○歌い継がれてきた日本の歌の特徴と背景となる文化・歴史との関わりを理解することができる。
○言葉の発音や息の使い方などを工夫しながら，全体の響きや各声部の声などを聴き，友だちと合わせて歌うことができる。
○自分のイメージに対する思いや意図を，全体のイメージにつなげ，共有し，イメージを声で表現することができる。

**【単元目標に必要な「論理的に思考し表現する力」】**
○音楽を形づくっている要素（旋律，フレーズ，強弱，テクスチュア）を知覚し，音楽の美しさや豊かさを感じ取り，ワークシートに記入した意見を共有しながら歌い，曲を練り上げていく。

**第２段階：評価のための証拠**

**【パフォーマンス課題】**
卒業記念音楽会で，豊かな響きのある混声四部合唱「ふるさと」を聴いている人に届けたいと思います。そのために，自分たちの合唱を客観的に聴き，もっと工夫できるところはないか考え，課題を見付け，それらを解決するための方法を考えましょう。また，学習の最後には，なぜ日本の歌は歌い継がれているのか，その理由も考えましょう。

| **【パフォーマンス課題における評価規準】** | **【他の根拠】（評価方法等）** |
|---|---|
| ○言葉の発音や息の使い方などを工夫しながら，全体の響きや各声部の声などを聴き，友だちと合わせて歌うことができる。<br>○音楽を形づくっている要素を知覚し，音楽の美しさや豊かさを感受し，曲を練り上げていくことができる。<br>○歌い継がれてきた日本の歌の特徴と背景となる文化・歴史との関わりを理解し，自分たちの生活や社会において音楽が果たしている役割を考えることができる。 | ○観察<br>○ワークシートの記述<br>○演奏聴取 |

**第３段階：学習計画（全４時間）**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 「ふるさと」の作詞・作曲者について理解し，文部省唱歌としての歴史的背景を理解する。音取り。 | １時間 |
| 2 | 思いや意図を共有しながら，合唱を作り上げる。 | ２時間 |
| 3 | 合唱の仕上げ，パフォーマンス課題。 | １時間 |

### (エ) 評価計画

| 評　価　目　標 |
|---|
| ①歌詞の内容や曲想及び，曲の背景となる文化や歴史との関わりに関心を持ち，合わせて歌う学習に意欲的に取り組んでいる。<br>②全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う学習に意欲的に取り組んでいる。<br>（音楽への関心・意欲・態度） |
| ③旋律，フレーズ，強弱，テクスチュアなどを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。<br>（音楽表現の創意工夫） |
| ④歌詞の内容や曲想を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能（発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方など）を身に付けて歌っている。<br>⑤全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌うために必要な技能を身に付けて歌っている。<br>（音楽表現の技能） |

### (オ) 指導計画（全４時間）

| 学　習　内　容 | ◇評　価　規　準　（観　点） | 時間 |
|---|---|---|
| ○昨年度の卒業記念音楽会の動画を視聴する。<br>○「ふるさと」の作詞者･作曲者について知る。<br>○小学校の共通教材の中から作詞者・作曲者二人が生み出した「ふるさと」以外の唱歌を歌唱する。<br>○文部省唱歌としての歴史的背景を理解する。<br>○日本語の歌詞を聴いている人により明確に伝えるための言葉の発声の仕方を学ぶ。<br>○音取りをし，全体で合わせる。 | ◇歌詞の内容や曲想及び，曲の背景となる文化や歴史との関わりに関心を持ち，合わせて歌う学習に意欲的に取り組んでいる。<br>（音楽への関心・意欲・態度）<br>◇歌詞の内容や曲想を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能（発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方など）を身に付けて歌っている。（音楽表現の技能） | 1 |

| | | |
|---|---|---|
| ○それぞれが考える「これが私のふるさと」の写真を紹介する。<br>○各グループでどう表現したいのか，思いや意図をもちながら曲想と歌詞の情景を関わらせた表現を創意工夫する。<br>○全体で思いや意図を共有しながら，合唱を作り上げる。 | ◇全体の響きや各声部の声を聴きながら，他者と合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。（音楽への関心・意欲・態度）<br>◇旋律，フレーズ，強弱，テクスチュアなどを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（音楽表現の創意工夫） | 2<br>本時<br>(その2) |
| ○録音した自分たちの合唱を聴き，課題を見付け，解決方法を考える。<br>○２年Ａ組の「ふるさと」を仕上げる。<br>○日本の歌がなぜ歌い継がれているのか，その理由を考える。 | ◇歌詞の内容や曲想及び，曲の背景となる文化や歴史との関わりに関心を持ち，曲にふさわしい音楽表現を工夫して合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。（音楽への関心・意欲・態度）<br>◇全体の響きや各声部の声などを聴きながら友だちと合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（音楽表現の技能） | 1 |

**(カ) 本時の指導（３／４時間）**

**① 主　題**　歌詞に込められた思いが伝わる表現を工夫しよう。

**② ねらい**

○歌詞の情景や作者の心情を感じ取りながら，曲想と歌詞の情景を関わらせた表現を創意工夫することができる。

○全体の響きや各声部の声などを聴きながら，表現に対する自分の思いや意図をもち，友だちと合わせて歌うことができる。

**③ 展　開**

| 学習活動（形態） | 時間 | ○教師の働きかけ　•生徒の反応 | ○指導の工夫　◇評価（方法） |
|---|---|---|---|
| 1　「ふるさと」を合唱する。（一斉） | 7 | ○今までの学習の成果を確認しながら「ふるさと」を合唱しよう。 | ○前時の復習が分かりやすいように，板書や掲示物でまとめておいた。<br>○音程が不安定なパートはピアノで補助した。 |
| 2　３番の歌詞に込められた思いを確認する。（一斉）<br>3　学習課題を確認する。（一斉） | 3 | ○３番の歌詞に込められた思いを発表しよう。<br>• 夢を実現するために故郷を出て都会に行った主人公が，成功を収めて必ず故郷に戻ってくるという決意の表れ。<br>３番の歌詞に込められた思いが伝わる表現を工夫しよう。 | ○歌詞を朗読させ，歌詞の内容や言葉の特徴を確認した。 |
| 4　各グループで工夫点を話し合いながら，練習する。（グループ） | 10 | ○自分たちのグループがどのように歌えば，理想的な表現に近付くか，意見交換しながら練習しよう。<br>• 作詞者の強い気持ちを出すために前半のフレーズのつながりを考えたい。<br>• 「志」は作者の思いがこもっているので言葉をはっきり表現したい。<br>• 強い意志を表している歌詞の部分はしっかりフォルテで歌いたい。<br>• 「ふるさと」の歌詞が２回出てくるので，語頭の歌い方に注意するとともに表現の違いを出したい。２回目の「ふるさと」は深く、少しゆっくり表現したい。 | ○より豊かな表現にするために，ワークシートを基に意見交換しながら拡大楽譜に思いや意図など工夫点を記入させた。<br>◇全体の響きや各声部の声などを聴きながら，表現に対する自分の思いや意図をもち，創意工夫して友だちと合わせて歌うことができる。（観察，ワークシート，演奏聴取） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | <br>グループ活動の様子 | |
| 5　各グループの工夫したいところを確認しながら，全体の響きの中で，作り上げていく。<br>（全体） | 10 | ○各グループの工夫した歌い方を発表しよう。<br><br>発表の様子 | |
| | | ○各グループの合唱を聴いて，学級全体としての表現を工夫しよう。<br>• 私たちが考えた表現とは全く違っていた。同じ曲なのに，捉え方によって表現の仕方がたくさんあることが面白いと思った。私たちのグループでは最後を楽譜通りおさめる歌い方をしたが，強い思いを込めて歌い切る方が作者の思いが伝わってきた。<br>• 最後の「ふるさと」はたっぷりと歌いたいから，テンポを遅くしたらどうだろう。 | ○自分とは異なる他者の考えも参考にして，自分の価値意識を再確認しながら表現を深めさせた。<br>○思いや意図を伝え合う場を取り入れ，学級の表現の工夫点を決め，その表現ができるように指導した。 |
| 6　本時の学習を振り返り，「ふるさと」を合唱する。（一斉） | 5 | ○工夫してきたことを生かして，最後に通し合唱をしよう。 | ○次時につながるように，本時の学習活動を振り返らせた。 |

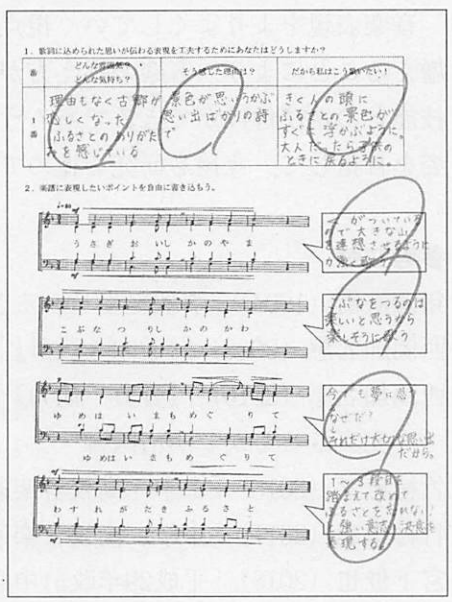
**イ　生徒の学びの実際**

生徒のワークシート（**資料１**）やパフォーマンス課題で用いたルーブリックによる評価の結果，生徒が考えた日本の歌が歌い継がれている理由について書いた文章は以下の通りであった。

| 評価 | 記述語 | 結果 |
|---|---|---|
| A | • 言葉の発音や息の使い方などを工夫しながら，全体の響きや各声部の声などを聴き，友だちと合わせて歌うことができる。<br>• 音楽を形づくっている要素を知覚し，音楽の美しさや豊かさを感受し，曲を練り上げていくことができる。 | 28% |
| B | • 声もある程度出ており，音程やリズムが正確に歌えているが，言葉の発音や息の使い方などの表現の工夫に乏しい。<br>• 課題を見付けることはできるが，解決方法を考えることができない。 | 62% |
| C | • 音程やリズムが正確に歌えていない。表現の工夫も乏しい。<br>• 課題も解決方法も見付けることができない。 | 10% |

日本の歌は，しんみりとした美しい曲が多い。伝えたいことをしっかりと歌詞で伝える一方で，歌詞から自分なりの解釈で想像を膨らますことができる。つまり自分ならではの歌として歌えることが魅力の一つだと言える。日本の歌は，日本人の人柄や心の美を表現しているので，人々に元気や力をもたらし，歌い継がれるのだと思う。

ルーブリックと生徒の記述



資料１　ワークシート

### 3　成果と課題（○成果●課題）

○本校の生徒は松山市内全域から通学しているため校区と呼ばれる地域がない。そのため，音楽室に子どもたちが考える「ここが私のふるさと！」の写真を掲示したりプレゼンで紹介したりすることによって，それぞれが思う「ふるさと」の情景について共有することができた。情景は風景写真もあれば，思い出の行事写真もあり，子どもたちが「ふるさと」について様々な捉え方をしていることが分かり，視覚に訴える教材提示は歌詞の内容を理解させる上でとても効果的であった。

○板書やプレゼンなどにより，今何をすべきなのか，学びの段階を子どもたちに提示することができた。また，事前にワークシートに自分の思いや意図を記入させて本時に臨ませたので，各自が課題意識を持ってグループ活動に取り組むことができていた。

○音楽科における言語活動は，音楽活動と言語活動を効果的に往還させることが大切である。本時の授業でも，子どもたちは仲間と意見を共有した後，歌って自分たちの表現を確認することができていた。

●混声四部合唱という演奏形態でグループ発表を行わせたため，合唱においても堂々と発表できる人数を考えたところ，１グループの人数が20人近くになってしまい，個々の意見をすくい上げることができなかった。表現の工夫に焦点を絞るならば，グループ活動を少人数の斉唱で行い，その後混声四部合唱に応用すればよかった。今後は子どもたちに何を身に付けさせたいのか，しっかりと焦点化し，それに応じた学習形態を工夫していきたい。

## 第３章　おわりに

この３年間，問答ゲームなど論理的思考力や表現力の育成に学校全体で取り組んでいる成果は大きく，音楽科の学習活動の話合いや発表の中でも，自分の思いや意図を表現し，それを他者に伝える力は高まってきた。しかし，その根拠となる音楽を形づくっている要素については，限られた要素に偏ってしまっており，はっきりと根拠となる要素を示して他者にアドバイスできる生徒はまだ少ない。音楽科の根拠はやはり楽譜にあると考える。表現分野では楽譜を基に授業を組み立てることができたが，鑑賞分野では楽譜を基に授業を展開することができなかった。今後は，どの分野においても楽譜を手がかりにした授業展開を工夫していきたい。また，音楽的思考が活動の中で，さらに生徒の言動で見えてくるような手立てが今後の課題である。

音楽表現をよりよくしていく視点は様々であり，また方法も様々である。生徒の知識や経験が増えることにより，音楽の捉え方が広がり，多様になってくれば，さらに質の高い感性と知識や技能との結び付けができるであろう。多様な価値観を持った生徒たちによる意見交換や表現する姿を目指して，今後も研究を進めていきたい。

**参考文献**

猪瀬直樹（1994）「唱歌誕生　ふるさとを創った男」文春文庫
西岡加名恵（2008）「『逆向き設計』で確かな学力を保証する」明治図書
西岡加名恵（2016）「『資質・能力』を育てるパフォーマンス評価　アクティブ・ラーニングをどう充実させるか」明治図書
竹村忠孝（2016）「中学・高校音楽通信Spire_M 2016年秋号　第１回滝廉太郎」教育出版
竹村忠孝（2017）「中学・高校音楽通信Spire_M 2017年春号　第２回岡野貞一」教育出版
宮下俊也（2018）「平成29年改訂中学校教育課程実践講座　音楽」株式会社ぎょうせい